

住民が設立した会社が運営する「与板★中川清兵衛記念BBQビール園」



## BBQ園、与板住民が切り盛り (長岡市)

### 信越 巡って発見

ビール醸造技師の第1号で「日本ビールの父」と呼ばれる中川清兵衛の生地、長岡市与板に屋外型バーベキュー施設がオープンした。10月下旬までの期間限定。昨年の運営は専門業者だったが、2年目の今年からは住民が設立した会社に替わった。官民が連携し、新たな観光産業として多店化も目指している。

長岡駅から車で20分ほど走ると、河川敷に大型テントが見えてくる。「与板★中川清兵衛記念BBQビール園」だ。住民や関係者を招いた4月16日のプレオープンに、小学生の娘と訪れた男性会社員は「屋外で食べるバーベキューは最高」と、地元産牛肉のシユラスと、チーズフォンデュや地元産野菜を使った女子会メニュー(3千円)、ソーセージやハンバーグステーキなどのキッズセット(千円)のメニューを新たに考案した。

元野菜を使った女子会メニュー(3千円)、ソーセージやハンバーグステーキなどのキッズセット(千円)のメニューを新たに考案した。

市内で飲食店を経営する取締役の山崎武雄さんも「未経験のスタッフが多いが、スキルを磨いて本番の夏を迎えたい」と意気込む。自治体も多方面から支援している。長岡市は最新のグリルや、120人を収容

### 自治体も支援、多店化視野

できる大型テントを提供。団体観光バスの手配も手がける。「住民の手で新たな観光拠点を育て、経営が安定すれば中越地方で展開する」(同市観光企画課)との狙いがあるからだ。

住民らも経営基盤の強化が重要と認識している。日本茶店を営みながら取締役を務める田中洋介さんは「ボランティアでは長続きしない。自己責任でしっかりと稼がないといけない」と話す。採算ラインの月40万円を大幅に上回る70万円の売り上げを目指している。

集客策として様々な企画も準備する。地元名産の打刃物(うちばもの)製造や農業を体験するツアーを組み合わせたパッケージプランの導入、キャンドルを使ったイルミネーションイベント、親子の防災教室の開催などを計画している。

名称の由来となった中川清兵衛は、サッポロビールの前身「北海道開拓使麦酒醸造所」でビール醸造の技術開発に携わり、国産ビールのパイオニアの一人。サッポロビールの岩崎智史・関信越本部長は「新潟県はビールの消費量が多い地域。住民の手による町おこしを支援していくと語る。住民の活動を官民が支え、与板をビールの町として全国に発信していく。」(北尾厚)